

八戸市協働のまちづくり推進委員会（第1回）議事録

日時：平成21年4月16日（木）
午後6時30分～午後8時30分
場所：八戸市庁別館2階会議室C

次 第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 案件
平成20年度事業の評価について
 - (1) 市民奨励金制度にかかる事業（8件）
 - (2) 市民提案制度にかかる事業（2件）
4. その他
5月23日：公開活動成果発表会
今後のスケジュールについて
5. 閉会

出席者（敬称略）

- 前山総一郎 委員長
- 北向秀幸 副委員長
- 岩崎光宏 委員
- 浮木 隆 委員
- 宮崎菜穂子 委員
- 広報市民連携課職員（課長他4名）

◆案件 平成 20 年度事業の評価

- ◇ 委員から提出された評価票を、団体ごとにまとめた資料を事務局で作成し、評価ポイントを絞って説明を行った。
- ◇ その後、奨励金各コース及び協働事業の評価の順で意見交換を実施した。
- ◇ 本日の意見交換をもとに、初動期支援コースの評価、事業拡大支援コースの評価、協働事業の評価、全体の評価について事務局でまとめ、5/23 活動成果発表会の総評の参考とすることとした。

1. 初動期支援コースの総評

- ◇ 初動期支援コースは、各団体とも良い方向で事業に取り組まれている。
- ◇ 市や委員から承認（市からの後押し）を受けている奨励金事業であるため、団体の自信に繋がる部分もあったかと思う。
- ◇ 中には奨励金がなければ実施できない活動も見受けられるが、初動期の活動であれば当然のことだと思う。
- ◇ ただ、今後は、団体の自立的な活動に発展するよう期待している。
- ◇ 初動期支援により、活動が更に伸び、団体が継続していくが大事。
- ◇ この奨励金をもらって、団体がどのようにステップアップしたか、次はどのような取り組みを考えているかを活動成果報告会で伺いたい。

①NPO八戸子育てメイトサロンネット「みらい」

- 実際の参加者がかなり増えたということは、イベントが認知されてきたということであり、奨励金による団体への初動期支援の役割は果たされたと思う。
- 参加者からは、近所に遊ぶところがなく、子育てサロンに連れて行けばそれなりに子供たちも遊べるため良いと聞く。ただ、子育てサロンを知らない人たちもいるため、やはり今回のような大きなイベントが必要だと思う。
- このような活動は必要であり、内容も良いと思う。
- 市内各地で子育てサロンが開催されており、それは今後も地道にやっていくと思うが、このような大きいイベントを実施することで、各地域で開催していることをPRするのであれば、イベントも必要。
- イベントを通じて子育てのための地域ネットワークを生み出すなど、事業自体が社会に必要。
- 補助金や奨励金が事業予算の財源として占めており、奨励金等がなければ成立しない事業である。
- いろんな意味で支援していかななくてはならない団体だと思う。
- 他にもいろんな補助金があるので、利用して頑張ってください。

- 団体が今後とも補助金がなくても活動できるかどうか心配。
- 公共性・公益性の面を担っていることから、継続的に動かす仕組みを考えていく必要がある。

②鮫元気大作戦本部

- 本年度も応募されているので、今後もこの活動によりネットワークが広がっていくのであれば、20年度の活動も意味がある。
- 報告書からは、整備事業のように見えてしまう（ソフト事業ではなく、ハード事業に見える）。
- プランターの整備（ハード事業）を行うことによって地域との連携がなされ認知されるのであれば、団体基盤整備の1つの手法かもしれない。
- 何かの事業をすることで地域の繋がりができて、関係が密接になるための物品購入ということであれば、それは凄く意味があることだと思う。
- 屋外広告物許可申請手数料を初めて知った。

事務局>屋外に看板等を設置する場合に、市の条例に基づいて申請しなければならず、そのための手数料。サイズによって料金も異なり、今回の看板は400円となる。

③いろいろなはぐくみの会・・・特に意見なし

④白銀公民館サポート「男の料理」・・・特に意見なし

2. 事業拡大支援コースの総評

- ◇ 各団体とも概ね良い方向で事業に取り組まれたと評価できる。
- ◇ 既存の活動であっても、実際に頑張っている方達がいるからこそ、今回の事業の拡大に繋がったと感じる。
- ◇ 今後、活動を自立的に運営できるよう、目的にあった補助金の選択、自己資金を得る方法の検討など工夫が必要だと思う。

①花生町内会

- 記念誌が非常に面白いと思った。
- あとがきで、記念誌作成に構想10年と記載され、内容は住民のヒアリング中心であり、まとめ方が非常に上手く、良くできている。
- この事業の凄いところは、記念誌を作ることがきっかけとなり、更に地域で様々な活動が深まっているところだと思う。

- 奨励金の目的の一つである地域コミュニティ支援の観点から、このように上手く周年事業と重ねて奨励金を活かしていくという事例は、有効な方法だと思う。
- この活動が大館地域全体を良い意味で刺激し、彼らが中心になって地域を揺り動かすきっかけになっていけば良いと思う。
- 町内の結束力および、インパクトも強いと感じる。

②特定非営利活動法人はちのへ地域再生シニア協議会

- 中心市街地活性化は難しい。一生懸命取り組まれているのだろうが、なかなか功を奏しない。
- 本奨励金ではなく違う種類の補助金を選んで申請したほうが良いと思う。
- 例えば、中心市街活性化を目的とする補助金であれば、テーブル・椅子の購入からプロジェクターの購入に変更しても、良いとは思う。
- 今後は事業内容や団体の事業目的を踏まえた上で、補助金等の応募先を選ぶことが大事。
- 事業の目的から見て、奨励金の対象事業であると思うが、プロジェクターの購入について、奨励金の使い方としてはもったいない気がした。
- 本事業の目的である中心市街地活性化事業としてはまだ道半ばであるとは感じる。

③はちのへ子どもフェスタ実行委員会

- 基本的に事業も安定しており、良い方向で進んでいる。
- 本事業も「子育てサロンネット」の事業同様必要な事業であると思う。
- やはり、ある程度補助金がないとできない事業だと感じる。
- 運営費のほとんどを奨励金に頼っていることから、今後会の自立という面からも、参加者に費用を負担してもらうことを考えた方が良いと思う。
- 事業拡大コースなので、運営費のほとんどが奨励金では困る。
- このイベントでは、子供たちは各ブースでお土産を貰って帰るが、その材料費は多分奨励金から出ているのだと思う。
- 団体によっては材料費を自ら持ち出していることがあるようだ。
- 入場料ではないが、参加費、材料費のような形で、多少お金を頂いても良いと思う。
- 入場料として取るのは難しいので、関心があるコーナーに行って、何か作りたかったら払うという形でしか取りようがない。
- 反面、無料だからこのイベントに集まってきているというのもある。
- 同時開催のパフォーマンス劇場は入場料を取っていることから、費用面をもう一度考えてもらいたいと思う。
- できれば自己収入を得ることも少し考えていただければいいと思う。

- 運営費として奨励金が圧倒的に占めているので、自立的な運営に向け自己収入等について少しだけ考えにいられておくと、今後良い動きになるのではないかと思う。

④市民アートサポート I CAN OF 特に意見なし

3. 市民提案制度協働事業の総評

- ◇ いのちの輪と健康福祉政策課の協働事業は、協働の理想的なケースになっている。
- ◇ ACTYの場合は、行政の複数の課との連携が非常にうまく行われた。
- ◇ 今後は、地域住民にも参加してもらえるよう、地区公民館等での活動機会を増やしたほうが良いと思う。
- ◇ 地域で開催することにより、NPO等と地域との距離が近い感覚になると思う。
- ◇ これらの協働事業については、是非継続してほしいと思う。
- ◇ 行政にとっても、非常に先進的なケースであると思うので、是非続けてもらいたい。

①ACTY

- 行政の複数の課を巻き込んだことは、「協働」として意味があると思う。
- 5課が取り組むという点では、内部の連携をうまく変えていっている状態である。
事務局>各課と数回、この事業が必要か話し合い、共通目標・目的を持つことを徹底して議論したため、頼まれたから講師をやるという意識ではないと思う。
また、事業終了後の2月には一堂に会して事業の振り返り及び意見交換を実施した。これにより市もパートナーも協働についての認識やコミュニケーションが更に深まったと感じる。行政側の協働への認識が上がったと感じている。
現在、港湾河川課では、21年度の事業を一緒に考えるため、打ち合わせを行っている状況。
- 行政内部で対応態勢を整え、各課で目的に合致しているか、この事業が必要かということを議論した上で、組織として対応している。
- 住民として一番必要としているところは、横の繋がりの中で一つの事象を解決してもらおうことだと思う。
- 横割り行政を進めることで、コストの削減を図ることもできると思う。
- 本事業を協働事業の例として、市の事業連携を広げていければいいと思う。
- 本事業に参加したが、勉強会の最後に行われるワークショップ等に担当課も加わってディスカッションしたことが、一番良かったと思う。
- 参加者が少なく寂しかったときもあった（写真参照）。

- 勉強会等を連続でやることに意味があるのだと思う。
- 海に焦点を絞った内容であれば、やはり地元（海の近く）で開催したほうが良かったと思う。地元で開催すれば地域の人たちも参加しやすいと思う。
- 勉強会を開催するので参加してくださいではなく、参加してもらうために主催者から出向いてかなくては、なかなか地域の理解を得にくいだろうと思う。
- 公民館などの身近な所で開催すると、NPOや市民団体が地域住民に少し近づくことができる。
- 勉強会における各課のプレゼンは、中学生が聞いても理解できるような非常に分かりやすい内容だったので、各課が学校に行って説明してもいいと思う。
- 行政（各課）にとってこのような事業は、普段の仕事のプラスアルファで取り組む仕事になると思うが、プラスアルファではなく1つの意義ある事業になるということを行行政各課に認識してもらう作業は、果たして広報市民連携課の役割なのか、それともパートナーの役割なのか、疑問に感じている。
- 行政の中にコーディネートの役割を担う課があってもいいと思う。
- 政策実現のために事業を抱き合わせようという動きも必要であり、そういった動きが八戸市に出てきたと感じる。
- 役所内分権化ではなく、横の連携やミッションの共通理解が「協働」という言葉を上手く使って柔らかく進んでいると思う。

②市民ボランティアサークル「いのちの輪」・・・特に意見なし

4. 全体総評について

- ◇ 協働事業は非常にうまくいっている。
- ◇ 奨励金に係る事業も概ね良い。
- ◇ 活動成果発表会では、各団体が事業実施によりどのようにステップアップしたのか伺いたい。

5. 奨励金制度について

- ◇ 整備事業（ハード整備）だけをやるために奨励金を活用されては困るので、それを防ぐ手立てが必要。
- ◇ 予算費目の中身まで細かく制限すると使い方に支障が出るため、あまり制限をかけたくはないが、例えば、事業の提案内容のうち承認した部分を伝え、そこから外れないような使い方をしてもらう必要があると思う。

- ◇ 奨励金事業に採択されたことで何をしても許されるわけではないので、奨励金の趣旨に合う、承認した部分を伝えることも必要だと思う。
- ◇ 予算の変更があった場合、変更申請をしていただくが、委員からの承認を得ている部分に変更になれば、本来の承認した部分が崩れる可能性があるため、今後、ある程度の制限をかけていかなければならないと思う。
- ◇ 個別の費目の使い方に関する問題は、実際に事業を進めると当然生じてくる課題で、奨励金制度はちょうどその課題にぶつかっている段階だと思う。
- ◇ むつ小川原振興財団の補助金には、事業終了後 2 年間のモニタリング調査がある。初動期のフォローアップを検討するには、このような方法もある。
- ◇ 奨励金の事業が終わった後の検証する材料として、モニタリング調査があった方が検証しやすいと思う。

6. その他

- ◇ 審査、評価に当たり、書類だけでは分からない実態を、実際の活動を目にすることで把握することが必要だと思う。
- ◇ 見学した後に、メールを活用して報告いただくと、委員のお互いの刺激にもなるし、情報共有も図れると思う。
- ◇ 事業内容によっては見学が難しいものもあるが、一般参加が可能なような事業などに行けばいいと思う。